

保育内容指導法「健康」に関する一考察

～学生の「健康」に対する意識と経験について～

金野 麻衣¹・石森真由子²

(¹聖和学園短期大学・²東北福祉大学)

I. はじめに

私たちが生涯にわたって健康で安全な生活を営む基盤は、生活リズムや繰り返しの経験が様々な要因と複雑に絡み合いながら成立していくものであり、多くは幼児期に培われるものと考えられている。その力を育むためには、子ども一人ひとりが基本的な生活習慣の意味を理解し、自ら獲得しようとする意欲をもつことができるようにすることが必要である。しかし、幼い子どもがそれらに自ら気づき獲得することは難しく、その重要性を理解した保護者や周囲の大人、そして保育者のかかわりや支えが大きな役割を果たすこととなる。

智原(2005)は、「保育には保育者の生活史そのものが現れるといわれるが、保育者自身が正しい生活リズムを確立したうえで幼児が健康で生き生きした生活を送れるよう、また幼児が基本的な生活習慣を身につけて自立できるよう援助するための知識や技能を取得することが必要不可欠である」と述べている。しかし、現在の学生の生活は、正しい生活リズムを確立するどころか今まで身につけてきたであろうものも崩れやすい状況にあるように感じられる様子が多く見られる。そのため、保育者として、保育現場に立つ前に自分自身のよりよい生活習慣の見直しも含め、授業では改めて子どもが「健康」に生活するために必要となる知識や理解を深めることが必要であるといえよう。

現在、保育者養成校においては、保育現場における保育実践力の向上のために授業や実習指導の中で模擬保育の実践が行われている。田村(2017)は、模擬保育の中で客観的に「他者の実践を観ることで学ぶ」体験をしている傾向があり、実践を観察する機会を増やすことの検討の重要性と見る視点の明確化を図ることの必要性があるとの報告をしている。また、中川(2020)は、授業実践報告の中で、具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法や保育実践の評価方法についての検討を目的とした事例報告をしている。その中では、他者の実践を見ることで、自身の指導技術の振り返りや指導へのイメージが深まる一方で、実践力は身につくが、実際の対象とのギャップがあるなど学生を園児に見立てた実践の限界もあることも示唆しており、今後も保育実践力向上を目指した取り組みの検討が必要であると述べている。このような報告がある中で、渡辺(2020)は、保育者の意識が幼児の生活習慣の形成に大きく影響すると考え、現代の保育者養成校で学ぶ学生の意識調査を行い、就学前までに定着させたい幼児の生活習慣に対してどのような考えを持っているかについて明らかにするための調査を実施している。

保育内容指導法「健康」は、保育者を目指す学生を対象とした領域「健康」に関わる保育指導を想定したものであり、専門的知識や現代的課題、保育実践の動向についての教養

を深め実践に活かすことをねらいとしたものである。本学においては、1年次前期履修科目である「領域『幼児と健康』」の中で子どもの健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うための基盤となる知識、技能を身に付けることの重要性の理解を深め、後期の「保育内容指導演『健康』」へ主体的に取り組むといった流れの中で学びを深めている。授業内容は、現代的課題や保育の取り組みに興味をもち、子ども理解や支援に結び付けることができるよう、保育者を目指す者としての協働を意識したグループワークに取り組むといった適切な指導方法を身に付けるための機会を設けてはいるが、模擬保育や発表への取り組みの中で学習面の理解度だけではなく、各個人の経験の違いなどによりグループワークの進み具合や発表の方法には差が見られた。

本研究では、「保育内容指導演『健康』」の履修者1年生を対象として、保育者を目指す学生の「健康」に対する意識と各個人の過去の経験についての調査することにより、学生に対する教育のあり方の再検討と今後のよりよい保育実践力の向上のための授業展開方法の知見を得ることを目的として調査を行うこととした。

Ⅱ. 研究方法

1. 調査対象・時期

本調査においては、前期「領域『幼児と健康』」を履修後、後期「保育内容指導演『健康』」を履修している保育者養成課程に在籍している短期大学1年生87名にGoogleフォームによる回答を求め、回答のあった82名（女子学生76名、男子学生6名）を調査対象とした。（回収率94.2%）なお、調査時期は、後期「保育内容指導演『健康』」14回目の模擬保育と発表を終えた2022年12月である。

2. 模擬保育と発表の実施方法

保育内容指導演「健康」の模擬保育・発表では複数の時間を実施に充て、下記の10項目のグループワークとして取り組んだ。必ず一人1項目を担当することとし、各項目に関して保育者になる上で知識・理解を深めておくべきと思われることをPowerPointで発表すること、保育現場における朝の集まりの中でお話をする機会があると仮定した模擬保育を課題とした。対象年齢は年長児を基本とするがグループで変更可能としており、発表および模擬保育を合わせて15分程度で実施した。

- 1 清潔について（手洗い・うがい）
- 2 虫歯対策について（歯磨き）
- 3 衣料について（衣服の着脱）
- 4 排泄について
- 5 食事について（マナー）
- 6 怪我について
- 7 交通ルールについて
- 8 避難・防災訓練について
- 9 プライベートゾーン・不審者について
- 10 LGBTQについて

3. 手続き及び倫理的配慮

「保育内容指導演『健康』」第14回目の講義終了後、本研究に関する説明を行い、調査に関する個人情報等は十分配慮し、個人が特定されることのないよう取り扱うこと、回答内容は授業評価等へ一切かかわらない旨についてもWEB上に明記した。対象学生より了承を得た上で、本研究への協力に同意したものとしてGoogleフォームによる調査を実施した。

4. 質問紙の内容

本調査では、以下の4項目についてGoogleフォームへの回答を求めた。

調査①就学前までに定着させたい生活習慣として、それぞれどのくらい重要だと考えますか。5段階で評価してください。

調査②就学前までに定着させたいとあなたが思う幼児の生活習慣の項目を5つ選び、順位を決めてください。

調査③生活習慣に関する以下の項目の重要性について、現時点において自分自身が子どもに説明することができるかどうか答えてください。

調査④生活習慣に関する以下の項目について、自分自身が幼少期の頃に教えてもらった記憶があるか教えてください。

Ⅲ. 結果・考察

調査①就学前までに定着させたい生活習慣の重要性（5段階評価）

学生が考える就学前までに定着させたい生活習慣の重要性については、渡辺（2020）が質問紙調査法により作成した就学前に定着させたい幼児の生活習慣である21項目の質問項目をもとに調査を行った。

使用した21項目の質問項目の内容を表1に示す。「睡眠」に関するものは項目1～4、「食」に関するものは項目5～8、「衣料」に関するものは項目9～11、「排泄」に関するものは項目12～13、「清潔」に関するものは項目14～16、「社会的な生活習慣」に関するものは項目17～19、「遊び・運動」に関するものは項目20・21といった7つのカテ

表1 就学前までに定着させたい生活習慣

	質問項目	カテゴリー
1	十分な睡眠をとる	睡眠
2	自分で朝起きられるようにする	
3	早寝早起き	
4	決まった時間に寝て起きる	
5	3食食べる（朝・昼・晩）	食
6	食事のマナーを守る（いただきます、ごちそうさまでしたがいえる、くちやくちや食べない、立ち歩かない、（食事中）遊ばない、食器の使い方・お箸・お茶碗の持ち方、座り方、肘をつかない）	
7	バランスの良い食事（栄養バランス、食べ過ぎない、好き嫌いせず残さず食べるなど）	
8	食事のリズムを保つ（食習慣、食べる時間など）	
9	一人で着脱ができるようにする	衣料
10	汚れたら自分から服を着替える	
11	衣料品を整える（服を自分でたためるようにする、くつを脱いだら下駄箱にしまうなど）	排泄
12	排泄習慣をつける（決まった時間に排泄する）	
13	一人で排泄できる	清潔
14	身を清潔に保つ（歯磨きをする、手洗いうがいをする、毎日お風呂にはいる、朝起きたら顔を洗う、タオル、ハンカチで手を拭く）	
15	どのタイミングで手を洗うかなど判断できるようにする（トイレに行った後手を洗う）	
16	自分で使ったものは自分で片付ける（整理整頓）	
17	マナー・ルールを守る（咳、くしゃみをするとき手で押さえる、交通ルールを守る）	社会的な生活習慣
18	挨拶ができるようにする	
19	髪の毛を整える	
20	他人と関わる・友達と遊ぶ	遊び・運動
21	外で遊ぶ・運動する	

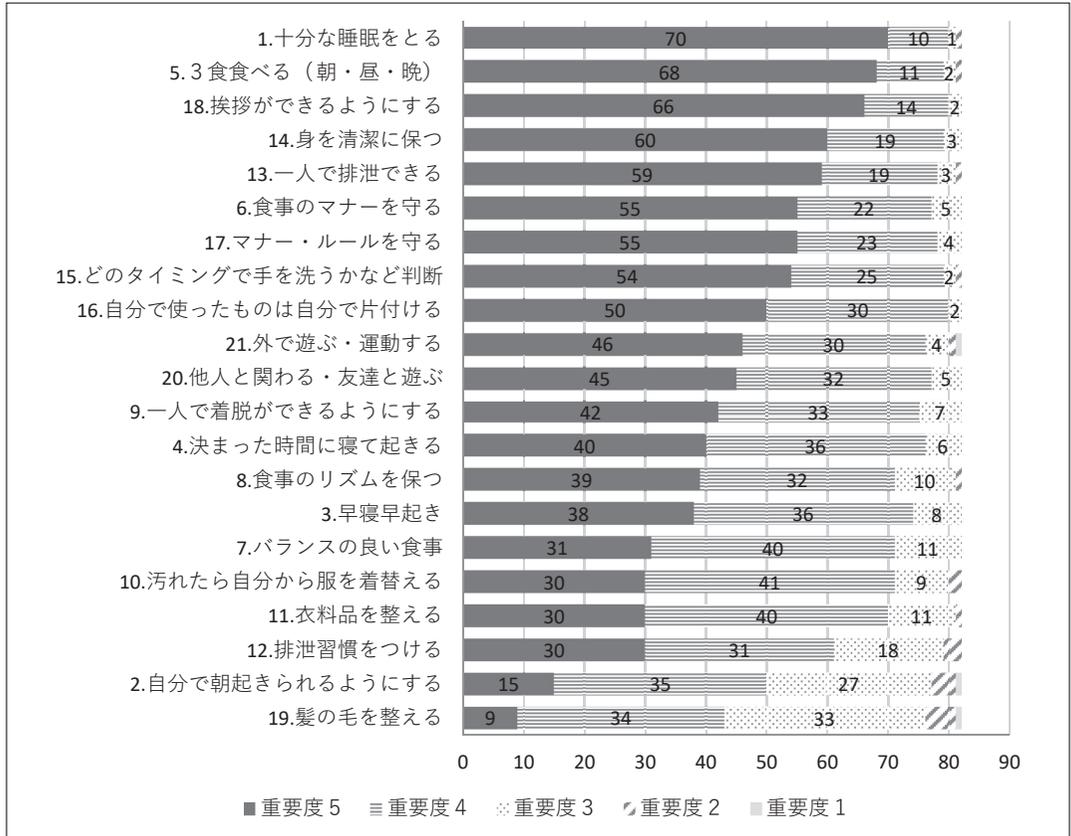


図1 就学前までに定着させたい生活習慣 n=82

グリーンに値する項目である。

就学前までに定着させたい生活習慣について、5段階評価で回答を求めた結果を図1に示す。数字の大きさは重要性の高さを示し、最も重要性が高いものを5、最も低いものを1とした。

21項目のうち最も重要性が高いという回答が得られたのは「1. 十分な睡眠をとる」であり、70名が選択した。次いで「5. 3食食べる」68名、「18. 挨拶ができるようにする」66名、「14. 身を清潔に保つ」60名、「13. 一人で排泄できる」59名、「6. 食事のマナーを守る」「17. マナー・ルールを守る」55名、「15. どのタイミングで手を洗うかなど判断できるようにする」54名、「16. 自分の使っ

たものは自分で片付ける」50名である。

「睡眠」の確保や「3食の食事」をとることは、幼少期の頃から学生自身が毎日の生活の中で繰り返し教えられた経験があるということが影響している可能性がある。また、学生自身が日常生活を送る中でバランスを崩しつつも現在に至っても指導される機会があり、重要であると自覚している項目であり、それらの生活習慣を就学前に身に付けておくことが必要であると感じていることが影響していると考えられる。「挨拶」については、基本的なコミュニケーション形成に必要なものであり、「一人で排泄できる」といった自立して行うことが必要となる項目や「マナー」といった項目については、私たちがよりよい

社会生活を歩むうえで必要不可欠なものとの考えが影響していると考えられる。

調査②就学前までに定着させたいと思う幼児の生活習慣（上位5位）

就学前までに定着させたいと思う生活習慣については、表1で使用した21項目のうち自分自身が思う上位5位までの順位について

回答を求めた。各順位は、1つのみ選択することとして、それぞれに1～5位の順位をつけるよう促した。複数の項目に同順位をつけている回答を除き、有効回答は82名中61名とし、結果については件数の集計とした。結果を図2に示す。

最も定着させたいという回答が多かったのは、「マナー・ルールを守る」37件であり、

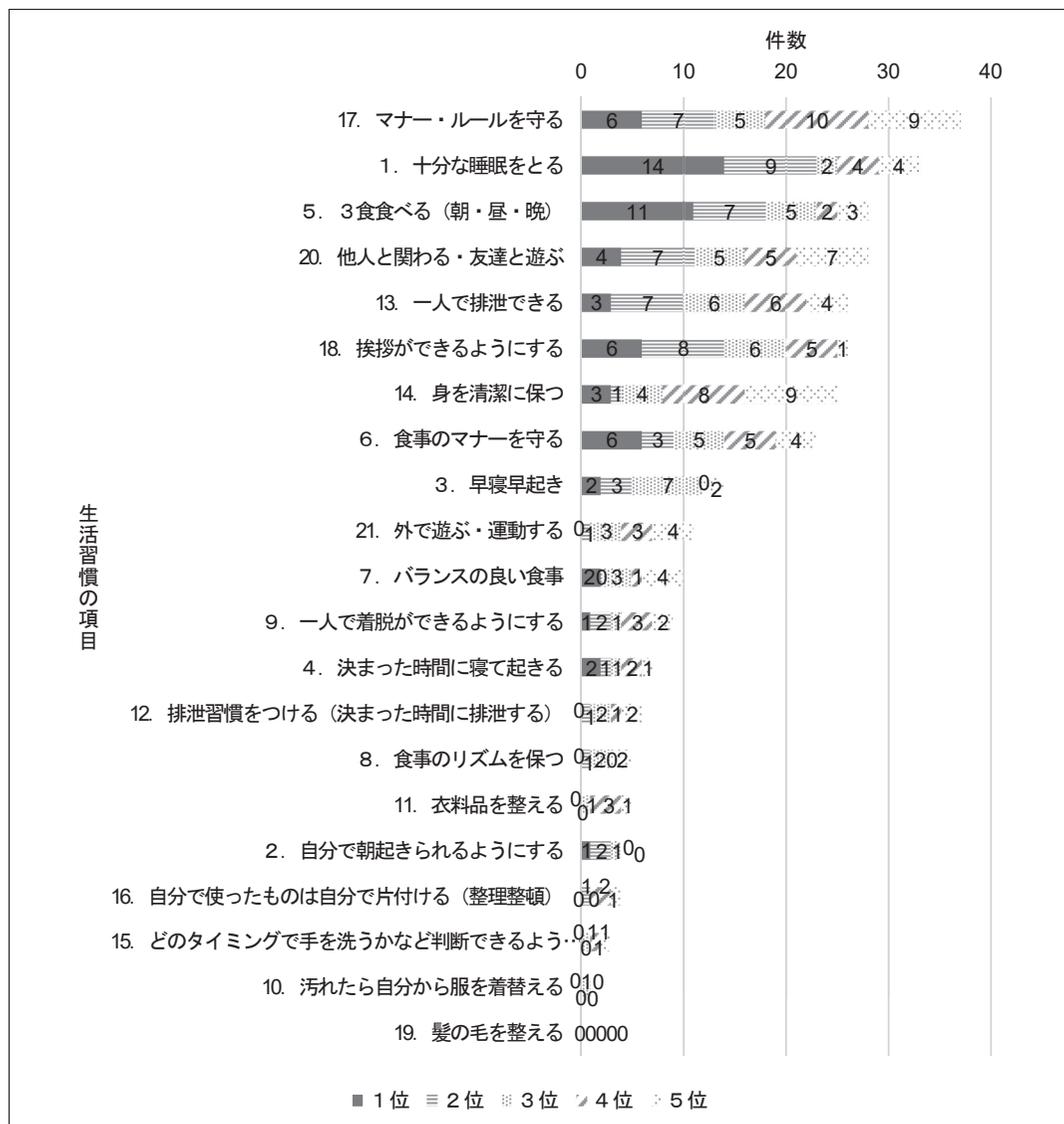


図2 学生が幼児に定着させたいと思う生活習慣（上位5位） n=61

次いで、「十分な睡眠をとる」33件、「3食食べる」「他人と関わる・友達と遊ぶ」28件、「一人で排泄ができる」「挨拶ができるようにする」26件、「身を清潔に保つ」25件であった。「髪の毛を整える」は0件となった。

上位にあげられたものは、調査①での結果で得られた項目とほぼ同様となったが、「マナー・ルールを守る」といった項目が「睡眠」や「3食食べる」よりも件数としては、高い数値となった。1位としての選択数は多くはなかったが、「マナー・ルールを守る」といったことを大切にすることが重要であると考えられる学生が多いことがわかった。「髪の毛を整える」といった項目は、0件であった。渡辺(2020)が行った先行研究でも「髪の毛を整える」という行為は高度なことであり、「人と対面する際に自分自身が恥をかかない」「相手の気分を害さない」という面の方が強いと考えられ、もう少しゆとりをもってよいと判断した学生が多かったと報告されている。幼児にとっては興味を持つものではあるが、自分で整えることの難しさや他人の目を意識するといった精神的な面の発育発達との関連

についての考えが影響していると考えられる。

調査③生活習慣に関する重要性についての幼児に対する説明力の自己評価

グループごとの模擬保育・発表を行った項目は表2の10項目であり、各個人必ず1つの項目に関する模擬保育・発表を経験している。尚、模擬保育・発表の項目として設定していた「交通ルール」については「社会的な生活習慣」に含まれているため、ここでは項目名の統一から「社会的な生活習慣」として標記する。調査③では、表1の21項目を7つのカテゴリーに分けたものに、模擬保育・発表の項目としては設定していなかった現代社会において必要性が求められていると思われる「睡眠」「遊び・運動」「行事食」を加えた13項目を設定した。(表3)

生活習慣に関する重要性について、表3の項目ごとに自分自身が子どもに説明ができるかどうかについて、「できる、ある程度できる、できない、わからない」の4段階で回答を求めた。結果を図3に示す。

表2 模擬保育・発表グループ別項目

	模擬保育・発表項目
1	清潔について(手洗い・うがい)
2	虫菌対策について(歯磨き)
3	衣料について(衣服の着脱)
4	排泄について
5	食事について(マナー)
6	怪我について
7	社会的な生活習慣について
8	避難・防災訓練について
9	プライベートゾーン・不審者について
10	LGBTQについて

表3 自分自身の幼児に対する説明力

	質問項目
1	睡眠について
2	食事のマナーについて
3	衣料について
4	排泄について
5	清潔について
6	社会的な生活習慣について
7	遊び・運動について
8	プライベートゾーンや不審者対策について
9	LGBTQについて
10	防災訓練について
11	虫菌対策について
12	行事食について
13	怪我について

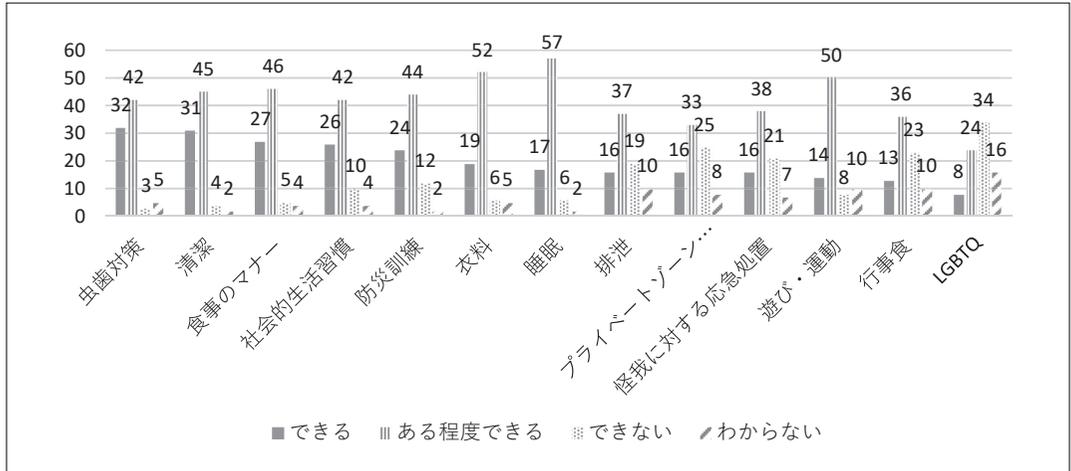


図3 子どもに対する説明力の自己評価 n=82

模擬授業や発表、そして授業への取り組みの影響もあるのか「ある程度できる」という回答がどの項目も目立った。しかし、「LGBTQについて」という項目だけは、「できる」が8名であり、最も少ない回答となった。

「できない」という項目が多かったのは、「LGBTQについて」であり34名、次いで「プライベートゾーンや不審者対策について」25名、「行事食について」23名、「怪我に対する応急処置」21名という結果となった。

調査④自分自身が幼少期の頃に教えてもらった記憶

生活習慣に関することを自分自身が幼少期の頃に教えてもらった記憶があるかについて、「ある、ない、わからない」の3段階で回答を求めた結果を図4に示す。自分自身の記憶に残っているものとして最も多い回答を得た項目は、「食事のマナー」であり66名であった。次いで「社会的生活習慣」が52名、「清潔」「防災訓練」が51名であった。「食事のマナー」は、日常生活の中で毎日繰り返されるものであり、日々の繰り返しによる影響

があると考えられる。「社会的生活習慣」としては、ルールやマナーに関することであり、将来的に社会においてよりよい生活を歩むために必要であると考えられるものが上位に値していた。「防災訓練」は安全に生活するために、訓練を実際に経験したことによって記憶に残っていることが考えられる。実際に訓練を行ったことを覚えていたり、防災訓練での対策が身に付いていることから記憶として残っていると自覚しやすいとも考えられる。

しかし、「LGBTQ」だけは、幼少期の頃に教えてもらった記憶が「ある」は0名、「ない」が73名となった。「LGBTQについて」は、多様性についての理解が求められる世の中となっているものの過去に教えられた記憶もなく、学生自身が学びを深める経験が必要であると考えられる。トランスジェンダーを対象とした岡山大学病院ジェンダーセンターの調査では、57%が小学校入学前までに性別違和を自覚しているとの報告が挙げられている。LGBTQに関する保育者の理解や意識を高め、就学前の段階において保育や生活を通した子どもへの援助および配慮がより重要とな

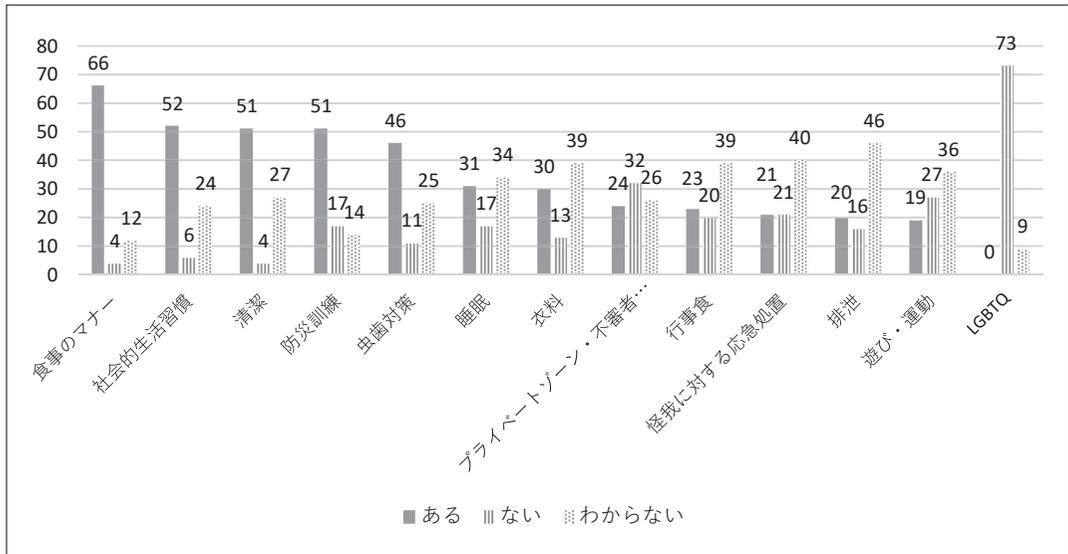


図4 幼少期の頃に教えてもらった記憶 n=82

ることは明らかである。子どもの個性や自主性を自由に発揮できる環境を保障し、多様性を受容する保育実践について、視野や知識を広げる保育者養成が求められると考えられる。

分析①

本調査により得られたデータを基に、「幼少期に教えてもらった記憶」と「子どもに説明する力」の各質問項目間の相関係数を算出した結果を表4に示す。「ある」1、「ない」0とし、「わからない」は分析対象から外す)

表4 「幼少期に教えてもらった記憶」と「子どもに説明する力」との相関係数

	説明1 清潔	説明2 虫菌 対策	説明3 衣料	説明4 排泄	説明5 食事	説明6 怪我	説明7 社会的 生活	説明8 防災	説明9 不審者	説明10 LGBTQ	説明11 睡眠	説明12 遊び・ 運動	説明13 行事食
記憶1 清潔	.16	.26	.22	-.04	.04	.26	.28*	.09	.25	.22	.08	.12	.10
記憶2 虫菌対策	.20	.29*	.19	.09	.20	.21	.09	.21	.35**	.11	.27*	.26*	.30*
記憶3 衣料	.15	.15	.24	.13	.11	-.04	-.07	.18	.41**	.06	.20	-.04	.23
記憶4 排泄	.17	.28	-.03	.29	.30	.02	-.25	.24	.50**	-.22	.16	.16	.23
記憶5 食事	.01	.31**	-.06	.13	.11	.06	.17	.15	.28*	.02	.06	.30*	.03
記憶6 怪我	.17	.15	.12	.31*	.00	.27	.28	.26	.12	.17	.28	.25	.25
記憶7 社会的 生活	-.01	-.01	.07	.16	.30*	.06	.21	-.01	.16	-.13	-.13	.10	.17
記憶8 防災	.00	-.06	.01	-.01	.01	-.03	-.06	.28*	.11	.01	.03	-.12	.18
記憶9 不審者	-.12	-.01	-.03	-.03	.03	.06	.19	.06	.11	.02	.06	.10	-.15
記憶10 LGBTQ	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
記憶11 睡眠	.26	.25	.21	.40**	.01	.21	.34*	.05	.31*	-.01	.05	.07	.38**
記憶12 遊び・ 運動	.09	.00	.17	.21	.07	.37*	.31*	.18	.16	.14	.15	.07	.25
記憶13 行事食	-.01	.27	.22	.16	.08	.18	.30*	.35*	.24	.14	.03	.22	.41**

** $p < .01$, * $p < .05$

「虫菌対策」(.29)「防災」(.28)「行事食」(.41)は相関が高い結果となったが、全体的に見ると、幼少期の記憶と説明する力との明確な関連があるとは言えなかった。

分析②

表5は、「定着させたい生活習慣の重要度」と「子どもに説明する力」の各質問項目間の相関係数を算出したものである。「食事」に関する項目や「社会的な生活習慣(マナー・ルール)」など、一部相関係数が有意となったが、全体的には「重要性の認識」と「説明する力」との明確な関連があるとは言えなかった。

表5 「定着させたい生活習慣の重要度」と「子どもに説明する力」との相関係数

	説明1 清潔	説明2 虫菌 対策	説明3 衣料	説明4 排泄	説明5 食事	説明6 怪我	説明7 社会的 生活	説明8 防災	説明9 不審者	説明10 LGBTQ	説明11 睡眠	説明12 遊び・ 運動	説明13 行事食
十分な睡眠をとる	.11	.29**	.18	.02	.05	.06	.11	-.04	.19	.09	.03	.01	.29**
自分で朝起きる	.07	.06	.17	.14	.07	.15	.19	-.09	.16	.03	-.01	.07	.07
早寝早起き	.03	.07	.13	.02	.01	.14	.18	.12	.06	-.10	-.04	-.05	.17
決まった時間に寝る・起きる	.02	.19	.02	.12	.20	-.03	.03	-.24*	.13	-.02	-.13	-.01	.04
3食食べる	-.06	.15	-.05	.10	.14	-.11	.05	-.09	.13	-.18	-.04	.19	-.04
食事マナーを守る	.16	.11	.11	-.11	.29**	.18	.26*	.06	.12	.02	.17	.14	.06
食事バランス	.21	.18	.12	.10	.34**	.15	.21	.10	.03	.09	.16	.26*	.15
食事リズム	.08	.13	.09	.12	.21	.32**	.17	-.01	.06	.17	.03	.17	.18
一人で着脱する	.04	.05	.18	-.06	.01	.24*	.05	.13	.18	.14	.01	-.07	.23*
汚れたら着替える	.05	.11	.07	-.08	.11	.20	.14	.12	.21	.04	.07	-.09	.07
衣料品を整える	.14	.05	.21	-.01	.20	.20	.14	.05	.15	.12	.00	.05	.15
排泄習慣をつける	.05	-.02	.06	.18	.18	.10	.00	-.04	.06	.09	.04	.01	.13
一人で排泄する	-.08	.23*	.16	.07	.20	.08	.00	.07	.33**	.02	.00	.02	.26*
身を清潔に保つ	.10	.16	.06	-.06	.20	-.05	.02	.00	.09	-.06	.07	.14	.09
手洗いのタイミング	-.04	.24*	.11	.11	.26*	.18	.20	.09	.26*	-.13	.09	.28*	.18
自分で片付ける	.16	.28**	.16	-.01	.34**	.22*	.33**	.11	.24*	.05	.07	.16	.12
マナー・ルールを守る	.09	.27*	.14	.03	.43**	.25*	.45**	.12	.13	-.09	.33**	.22*	.16
挨拶をする	.15	.22	.12	.04	.25*	.16	.21	-.03	.11	.07	.05	.09	.21
髪の毛を整える	.18	.19	.04	.11	.29**	.14	.14	-.15	.25*	.14	-.14	.10	.30**
友達と遊ぶ	.03	.14	.20	.09	.23*	.11	.24*	.12	.22*	.25*	.10	.16	.30**
外で遊ぶ・運動する	.07	.29**	.06	.15	.20	.08	.13	.18	.30**	.12	.18	.18	.14

** $p < .01$, * $p < .05$

分析③

表6は、「模擬保育・発表で扱った項目の説明力」と「その他の項目の説明力」の比較である。模擬保育・発表で扱った項目の説明力と扱っていない「その他の3項目の説明力」の差を検討するために、対応のあるt検定を行った。比較項目は、模擬保育で扱っていな

い「睡眠」「遊び・運動」「行事食」である。模擬保育・発表で扱ったものは、「LGBTQ」を除いてすべて説明力が高い値を示した。「LGBTQ」に関しては、学生自身が教えてもらった記憶がないということと、模擬保育や発表を見ることによって、理解度が低いことに気づいたことの影響も考えられる。

表6 「模擬保育で扱った項目の説明力」と「その他の項目の説明力」の比較

模擬保育項目	説明力	比較項目の説明力 (説明11 - 13)	自由度	t 値
清潔	1.30 (0.60)	0.93 (0.44)	81	5.58***
虫菌対策	1.29 (0.64)	0.93 (0.44)	81	5.36***
衣料	1.10 (0.60)	0.93 (0.44)	81	2.29*
排泄	0.84 (0.72)	0.93 (0.44)	81	-1.31
食事	1.22 (0.63)	0.93 (0.44)	81	4.59***
怪我	0.85 (0.72)	0.93 (0.44)	81	-1.26
社会的生活	1.15 (0.69)	0.93 (0.44)	81	2.83**
防災	1.12 (0.67)	0.93 (0.44)	81	2.38*
不審者	0.79 (0.75)	0.93 (0.44)	81	-1.78
LGBTQ	0.49 (0.67)	0.93 (0.44)	81	-5.78***
全体	1.02 (0.39)	0.93 (0.44)	81	1.97†

*** $p < .001$, ** $p < .01$, * $p < .05$, † $p < .10$

注) 括弧内は標準偏差

IV. まとめ

本調査においては、保育内容指導演「健康」の学びを深める中で、学生が生活習慣のどのような部分に重要性を感じているのかといった意識や授業・模擬保育を通して自分自身がその重要性を子どもに説明することができると感じているのかといった説明力に関する自己評価について、過去の自らの学びの経験を振り返ることも含めた調査を行った。

現代社会は、ICTの普及により様々な情報が得られ、効率化・スマート化が求められるようになった。また、大人の価値観の変容に伴い、子どもの生活環境は大きな影響を受けており、新たな課題を課せられている状況といえる。ここ数年においては、私たちの心身の健康や安全な生活を脅かすような問題が想像をはるかに超えるものとして存在しており、新型コロナウイルス感染症 (covid-19) や大規模災害に対する不安は、より一層増すばかりである。このような生活の中で直面している諸問題に対する予防や対策については、従来までの捉え方では対応することが難しく、その都度見直しをを図ることを余儀なく

されており、保育現場はもちろんのことそれ以外の日常生活においても新しい情報を得てより適切な指導方法の検討をすることが必要な状況となっている。

今回の調査では、学生自身が学んだ経験がないことに対する知識や指導演に対する項目には非常に消極的な知見が得られた。情報を見聞きしてはいるものの、それらが実体験として身に付いていない、あるいは、全く触れる機会や興味を持つきっかけもなく過ごしてきた様子も見受けられ、保育者を目指す学生のこれまでの生活環境も多種多様となってきていることが伺えた。今後は、生活習慣に関わることだけではなく、現代社会が求めていることに対する知識を深めるための学びが必要であるといえる。説明力についての自己評価は、模擬保育をすることによって、自分自身の理解度や指導イメージが深まることで子どもに説明できるようになることにつながることも考えられるが、自分自身の理解度の低さに気づくことにより、説明することが難しいと感じる可能性もある。子どもが「健康」に生活をするために必要となる知識や理解を深

める学びの充実化と現代社会に求められる保育実践力の向上につながる学びと指導法の検討が必要であると考え。

V. 参考文献・引用

- 智原江美（2005）体力テストおよび生活リズムからみた保育者養成校のカリキュラムへの提案. 奈良佐保短期大学紀要第13号. 67-78
- 田村元延（2017）保育者養成における「健康系」授業の模擬保育指導方法の検討－先生役、幼児役、観察役の学びの傾向に着目して－. 常磐大学短期大学部紀要48号. 81-90
- 中川希望（2020）保育内容研究Ⅳ（健康）における模擬保育の検討. 函館大谷短期大学紀要. 第34号. 1-9
- 渡辺直人（2020）就学前までに定着させたい幼児の生活習慣に関して－保育者養成校学生はどのように考えているか－. 人間生活文化研究NO. 30. 575-583
多様性を考える保育士研究会「にじいろ保育の会」
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000003.000093933.html>（情報取得2023.1.21）
<https://www.okayama-u.ac.jp/user/hospital/news/detail365.html>
- 野々上敬子・田村裕子・岡崎恵子・多田賢代・笹山健作（2022）幼児と保護者のライフスタイルに関する調査
- 末寄雅美・命婦恭子（2019）保育者養成課程の学生が持つ子どもの遊び環境への理解. 日本生活体験学習学会誌. 第19号. 53-58
- 清水将之・相樂真樹子・小山朝子・堀内亮輔・川辺洋平・石森真由子・小櫃智子（2022）実践例から学びを深める保育内容・領域健康指導法. わかば社